



# 九条の眼

## 「君が代起立斉唱命令」に合憲判決

### 憲法19条「思想、良心の自由」踏みにじる最高裁判決

卒業式の君が代斉唱時の不起立を理由に、東京都教委が定年後の再雇用を拒否したのは「思想や良心の自由」を保障した憲法に違反するとして、元教諭が都に賠償を求めた訴訟の判決。最高裁は、全体の奉仕者である地方公務員は職務命令に従うべきであると結論づけて、上告を棄却しました。原告の一人として闘い続けている9条の会会員の柳 掬一郎さんは「現在、2003年の都教委による「君が代・日の丸強制10・23通達」関係の裁判のうち10件余りが最高裁に係属または上告手続き中です。私たちにとって、全案件がまとめて大法廷に移され、まともな憲法判断がされるのではと期待されている最中での5月30日の“合憲”判決でした。」と不当な判決に失望されながらも「道の厳しさを痛感しますが、思想、良心の自由を守るため今後も頑張るつもりです。」と決意をあらたにされています。大阪では教職員に君が代の起立斉唱を義務づける条例案判決が確実視されています。憲法の悲鳴が聞こえる政情です。不当な法律にがんじがらめにされ自由を奪われてはたまりません。私たちも柳さんに負けず憲法を活かすため力を尽くしましょう。

## 寓話

螺奔 綴怒



昔あるところに、小さな国がありました。狭い土地にたくさんの方が住んでいたのに、資源も食糧も不足気味でした。そこで、隣の広い国の土地に勝手に国を作り、自国の民に農作をさせたりしたので、争いが起こってしまいました。その上隣国に味方した海の向こうの大きな国にまでちょっかいを出し、いくさになりましたが、大敗してしまいました。大きな国は、一瞬にしてたくさんの方が死ぬだけでなく、一生病で苦しみ、子孫まで脅かす、とんでもない武器を使いました。だから、人々はいくさもその武器もこりごりだと思っていました。

しばらくしてその武器と似た作り方で、明かりや、かまどの火の代わりになるものが作れると聞いて、後の長になる者は、これを作ろうとしました。この便利な道具を作っていれば、あの武器を作る技術や、材料を手に入れることができるのではないかと思っただろうかは定かではありませんが、

元々恐ろしい武器を作る筈の仕組みなので、危ないからと反対する人もいましたが、もし万が一の事が起きても、安全なようにしてあるから絶対に大丈夫と言っていました。なぜか、人のあまり住んでいない所に作っていききました。

ある日、少し離れた所で大きな地震が起き、安全のためひとりでは止ったままでは良かったのですが、その後が大変でした。この道具の中はとも熱く、水で冷やし続けないと、熔けてしまったり、爆発する危険があるのです。止っているので作られなくなった明かりや火のものが、冷やす為には大量に必要なのです。万が一のために別のところから鉄の線で運ぶはずでしたが、その線を支える塔が倒れて壊れて使えず、予備の仕組みも壊れてしまいました。地震には強いと豪語していたので、塔が倒れたのは、今まで聞いた事もない大きな津波のせいだと言っていました。実は地震で倒れたのです。

目には見えない汚れが、人も、牛や馬も、土も草も汚すので、人々はそこに住むことができなくなり、他の土地に移って、不自由な暮らしを余儀なくされました。牛や馬は連れて行けないので、置き去りにしました。少し離れた所に住む人々は、土地を離れることは免れましたが、食べたなら危ないという噂が立ち、野菜も魚も売れないで困っています。